

新生会看護部通信

2007.10.1 発行 第16号

終末期医療について

【病棟 師長代理 題佛真実】

「質の高いターミナルケア」という言葉を耳にした人も多いと思うが、それはどういうことであろうか？岡田一義は「すべて自分がやりたいようにできるということ」と言っています。治療の選択や自己決定など、思うように生を全うしたい。と思うのはごく自然なことではないでしょうか？

そのためにはいくつものハードルが存在します。米国では事前指定書による尊厳死が法的に認められています。日本では法制化されておらず医師が勝手に治療中止できない状況があります。このままでよいのでしょうか？医師の75%が事前指定書が必要。と答え、法制化すべきか？には55%が「すべき」である。と答えています。しかし、法制化されるか？には15%のみYESと答えています。これは生命倫理向上について、何かやっているかとの問いに、ほとんどやっていない。という医師や看護師がみえる。理由であります。また、死を考えるのではなく、生を全うするという考え方もあります。「尊厳死」と言う考え方で、事前指定書を作り、国民に事前指定書が尊厳維持のために必要であると、認識してもらうことが、質の高いターミナルケアを確立するための重要なステップではないでしょうか？下記に示す『透析患者の終末期医療のあり方を考える』のアンケート結果からも医師や看護師の多くが事前指定書の必要性を認識しています。今後は①患者や家族のエンドオブライフをチームで支えあうサポート体制、②事前指定書の整備、③法制化の前段階としての国民の理解などが、重要と考えます。

透析患者の終末期医療のあり方を考える

～新生会第一病院・十全クリニックのアンケート調査より、その一部をご紹介します～

【目的】 透析における終末期医療について調査研究を行い、今後の透析患者の終末期医療のあり方を考える。

【方法】 対象：入院、通院透析患者に関わる看護師69名(回収率89.6%)、医師10名(100%)

期間：2006年11月～12月

調査方法：記述式のアンケート調査を実施・分析

倫理的配慮：個人が特定できないよう不利益が生じないということを明記した上で、アンケート調査を実施

透析患者の終末期はどんな状態？

人(%)

	看護師 n69	医師 n10
透析困難	31 (44.9)	10 (100)
ADL低下	14 (20.2)	0 (0)
合併症で重篤	13 (18.8)	2 (20)
意識不明	7 (10.1)	1 (10)
透析導入	6 (8.7)	0 (0)

重複回答あり

#IOSPY

透析患者と癌患者の終末期の違いは？

【看護師の意見n69】

- ・余命が**短いのが癌** 13
- ・余命が**長いのが透析**
- ・透析は**エンドレス** 12
- ・終末期に**違いはない** 6
- ・がん患者は**疼痛**コントロールが必要だが透析患者は**必要ない** 5

【医師の意見n10】

- ・終末期に透析患者も癌患者も**違いは無い** 3
- ・管理内容で**余命に差が出る** 1
- ・癌の方が**衝撃**が大きい 1
- ・透析患者は急に終末期になる 1

#IOSPY

事前指示書は必要【気持ち】か？

必要、できればあったほうが良い

n69 n10 人(%)

看護師 64 (92.7)

医師 9 (90)

(看護師)

- ・本人の**意思を尊重**すべき 17
- ・家族が**納得**するため 5
- ・急変時の**方針**がないと困る 2

(医師)

- ・人の**尊厳**を守るため 1
- ・終末期の**透析**を続けるかどうかの**判断基準** 1
- ・家族の**考え**をまとめる 1

#IOSPY

今後の新生会の終末期医療について

【看護師の意見】

- ・本人と家族と医師が話し合いを持って**意思確認**をしてもらいたい
- ・事前指示書を透析導入前から**各段階**でとる
- ・透析患者の終末期について**話し合う場**が必要
- ・精神的アドバイザーがほしい

【医師の意見】

- ・倫理委員会で透析中止の**判断基準**を検討
- ・本人や家族の**意思表示**を何らかの形にしておく
- ・医療チームの**ディスカッション**
- ・専門化とコンサルトできるつながり

#IOSPY

新人研修『自己啓発』

【十全クリニック 主査 平原みどり】

来る6月23日(土)に現任教育委員会主催 **新人研修「自己啓発」**が行われました。今年度は、新緑を思わせる初夏の中、入職3ヶ月という時期での開催でしたが、無事に終えることができました。研修は、「私の名刺」の自己紹介で始まり、「ふくぶく村の宝探し」では宝の地図をグループで一丸となって取り組み一つのものを作り上げました。また、午後からは反響の大きかった接遇での演習と、写真や雑誌を持ち寄って、趣味や夢など様々な作品を完成させた「コラージュ」で終了しました。研修の最後では、それぞれの思いや感想など表現し合い、自分自身をみつめ直し研修生の仲間意識が芽生え、他部署を通じて頑張っていこうという力強さを感じました。

研修生の声と演習風景



★自分を振り返るいいチャンスとなった。(Aさん)

★人と話すにも何かをするにも、自分をアピールするには自らきっかけやアクションを起こすことの大切さ学ぶことができた。(Bさん)

★みんな同じ不安や悩みを抱えているんだということがわかって自分への励みになった。(Dさん)

★多施設のスタッフと交流を深め、お互いを知り、仲良くなった。(Eさん)



★それぞれ職業も年齢も歩んできたキャリアも全く異なるけれども、透析は初めてという共通点があることから共感しあうことができた。(Fさん)

★同じ悩みや経験をしていることが共有できた。(Cさん)

看護実践プロジェクトスタート！！

【外来 主任 佐久間恵巳】

プロジェクトA(透析看護技術)

★目的★

HD室のベテランナースの体験をまとめ、『**透析看護技術**』の向上を図るとともに、後輩の育成に役立つような取り組みをしていきます。

★メンバー紹介★

村上麻智子(浄化C・透析技術トレーナー)

牧島奈美(浄化C・透析療法指導看護師)

長野徳子(浄化C)

畑えみ子(鳴海C)

村上みつよ(十全C)

小川ひとみ(金山C)

立石鈴江(東海C)

松井みゆき(浄化C)



★内容★

- ①透析時によく起きるトラブル・事故についての体験集づくり
- ②体験を観察の視点でシミュレーションできる形式の作成
- ③2年目のスタッフ教育などに活用する教材づくり

プロジェクトB(糖尿病看護技術)

★目的★

糖尿病患者のセルフケアと症状の早期発見に役立つ各関連施設共通のフットケアチェックリスト作成に取り組みます。

★メンバー紹介★

佐久間恵巳(外来・糖尿病療養指導士)

今福節子(療養病棟・糖尿病療養指導士)

西谷佐智子(教育C・糖尿病療養指導士)

本田和美(一般病棟)

加藤千万代(浄化C)

立松宣子(十全C)

福富和子(鳴海C)

吉田佳代(金山C)

永尾洋子(東海知多C)

徳井久子(あしたの丘)



★内容★

- ①フットケアの新しい情報や研修会で知識・技術を学習する
- ②現場での実態を把握し、新しい知識を取り入れたチェックリストを作成する
- ③チェックリストを正しく使えるよう運用マニュアルを作成する

口腔ケアと嚥下訓練

だいごみ
看護の醍醐味シリーズ2

口腔内汚染が強く、舌苔がつきやすいと、汚染された口腔内分泌を誤嚥し、肺炎をおこす危険があります。したがって、口腔内を感染のない状態にしておくことが大切です。療養病棟では、経口摂取を行う患者には食堂で、毎食後歯磨きを徹底し、義歯は夕食後、水につけて保管しています。その他の患者に対しては、舌苔や唾液の塊の除去、口臭の改善に努め、口腔内の衛生を保っています。ここでは口腔ケアで使用している物品を紹介したいと思います。【療養病棟 原 三幸】

【物品紹介】



★スポンジブラシ★

開口や含嗽が難しい患者に、歯ブラシと併用して使用しています。湿らせたスポンジで口腔内をまんべんなくぬぐい、唾液や舌苔、食物残渣の塊を除去します。また、軟口蓋や頬のマッサージも行います。

★オーラルバランス★

口腔内（特に舌）の乾燥が強い患者に使用しています。手の甲でオーラルバランスを薄く伸ばし、口腔内に塗布します。15分経つと唾液の塊が融解され、除去しやすくなり口腔ケアの最後に再び塗布すると、口腔内の湿潤を保つことができます。



【摂食機能療法の実施】



食事時に工夫している点は、水分でムセがある場合、栄養科と相談し、トロミをつけてもらい、更に患者のトロメリンにてトロミの調節を行っています。気管支に入ってしまう恐れがある方には、食物を嚥下した後、もう1回、嚥下をしてもらう「空嚥下」を行っています。

また、嚥下障害のある患者には、言語聴覚士の水島先生と一日一回、「摂食機能療法」を行っています。

★摂食機能療法実施記録★

間 接 訓 練	口腔ケア
	口を開ける・閉じる運動(3回ずつ)
	舌を出す・引っ込める運動(3回ずつ)
	咳払い(2回ずつ)
	発声「アー」(2回)
直 接 訓 練	口腔の観察(唾液や痰の貯留、舌苔の有無)
	姿勢の保持
	食事の観察(一口量、食事量、むせの有無)
	水分、薬服用の観察

いまいまナース

現在、通信制の看護学校で学びながら、仕事と家庭を両立し、透析室では患者様からも大変頼りにされている小山内真智さんをご紹介します。

Q：仕事と学校の両立のための原動力となっているものは？

A：正直なところ、現在の生活はきついです。絶対合格するという信念と、家族やスタッフからの応援が励みになります。

Q：患者様と関わる上で心掛けていることは？

A：患者様が辛い時にこそ傍にいます。朝はどの患者さんにも必ず挨拶して、その反応からその日の調子をみて関わっています。学校での学びも大変、役立っていますね(笑)



小山内家では長男、長女ともに受験生で、小山内さんも2月の国家試験を控え、家族で切磋琢磨しているとのこと。国家試験合格という大きな目標に向かって、頑張ってください。

【東海クリニック 主任 中尾幸子】